

1クリックでデプロイ用USBメモリにマスターイメージを作成 キitting作業の生産性を大幅に向上

独自資料やセミナーでマスターイメージ作成を懇切丁寧にサポート

PC管理担当者にとってキittingは、とにかく時間と人手がかかる頭の痛い作業である。キitting作業をスマートに終わらせるためには、きちんと自動化されたマスターを作成し、それをいかに短時間で多数のPCに展開できるかが最大のポイントになる。

USBメモリのみでキitting作業ができる ActiveImage Deploy USB

企業が新たにPCを導入した場合、OSのインストールや各種設定、アプリケーションのインストール、ネットワーク設定など、すぐに業務で使える状態にセットアップする必要がある。この作業を「キitting」という。キittingを行うPCが数台であれば、1つ1つ手作業で進めても特に問題にはならないが、数十台、数百台と台数が増えてくると、かかる時間と人手、コスト、エンジニアの作業負荷増大などが大きな課題となる。

たとえば、100台のPCを手作業でキittingする場合、OSやアプリケーション、ネットワークなどの設定作業を100回繰り返さなければならない。そこで、すべてのPCに共通な設定でセットアップしたマスターPCを1台用意し、このマスターPCからマスターイメージを作成して、残りの99台のPCにはマスターイメージをデプロイ(配布/展開)するようにすれば、キittingにかかる時間を大幅に短縮できるわけだ。アクティブアイの「ActiveImage Deploy USB」は1本のUSBメモリでマスターイメージの作成とデプロイが可能なキittingツールで、キitting作業を極限まで効率化できる製品だ。

ActiveImage Deploy USBによる「デプロイ用USBメモリ」の作成——利用方法は次の通りだ。

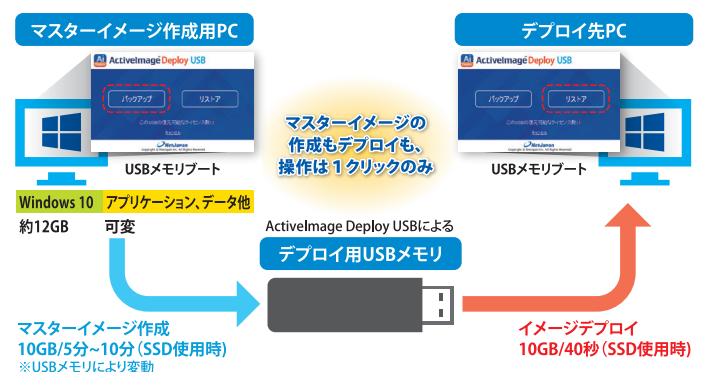
まずは、ActiveImage Deploy USBをインストールした「作業用PC」にて、USBメモリを「デプロイ用USBメモリ」として専用化する。ウィザードに従って、作成個数や復元ライセンスの割り当て、次工程で作成するマスターイメージへのパスワード設定や重複排除圧縮(アクティブアイ独

自の技術)の設定なども簡単に行える。

次に、デプロイするマスターイメージを作成し、USBメモリに取り込む。この「デプロイ用USBメモリ」を「マスターPC」に差し込んでUSBメモリからPCを起動。表示される画面の「バックアップ」ボタンをクリックするだけでよい。

デプロイ作業も極めてシンプルだ。マスターイメージを取り込んだ「デプロイ用USBメモリ」を「デプロイ先PC」に差し込んでUSBメモリからPCを起動。表示される画面で「リストア」ボタンをクリックするだけで、マスターイメージを「デプロイ先PC」に展開できる。SSDを搭載したPCであれば、10GBのマスターイメージをわずか約40秒という短時間でリストアできる。これはデプロイ用サーバーとマルチキャスト配信を使ったソリューションと比較して5倍も速い。1,200台のPCに対して40GBのマスターイメージによるデプロイを7日間で完了した事例もある。

さらに、ActiveImage Deploy USB Plusライセンスを利用することで、エンドユーザー向けにリカバリー用USBメモリを添付して出荷することも可能。PCに問題が発生したときにリカバリー用USBメモリでPCを起動し、「リストア」ボタンをクリックすればPCをすぐに初期状態に戻すことができる。



マスターイメージの作成が キットニング効率化の鍵

ActiveImage Deploy USB を活用することで、キットニング作業全体の時間と人手、コスト、エンジニアの作業負荷を大幅に削減できる。しかしキットニングをもっと効率化するためには、事前に準備が必要だ。単にマスター PC のイメージを展開すると、マスター PC と完全に同じ PC が複数出来上がる。これは、コンピュータ名や Windows のライセンス等も同一なので同時に使用すると競合する可能性がある。これを解決するためには、マイクロソフトが提供するシステム準備ツールである Sysprep (System Preparation Utility) を利用して、最適なマスター PC を用意することが重要だ。

Sysprep を使った Windows OS を展開するためのシステム準備済みのマスター PC からマスターイメージを作成・展開し、PC を起動したとしても、通常の初期インストール時と同様にマイクロソフトの AI アシスタントである Cortana (コルタナ) が立ち上がり、言語やユーザー名、組織名などを手動で設定しなくてはならない。さらに Windows Update を実行しなければ PC はユーザーが使える状態にはならない。これには、30 分程度の時間がかかる。

そこで、Sysprep の自動応答ファイルを作成してマスター PC に組み込むことで、初期設定を自動化できる。自動応答ファイルを含めて作成されたマスターイメージがリストアされた PC は、初回起動時に自動的にセットアップが実行されるので、手作業での初期設定が不要になる。これにより、エンジニアは ActiveImage Deploy USB でマスターイメージをリストアするだけでキットニング作業は終了。デプロイ後の作業時間もゼロにすることができる。しかし、自動応答ファイルの記述は熟練のエンジニアでなければ簡単にはできない。

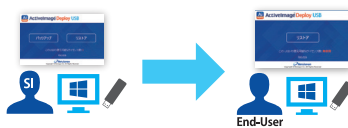
Sysprep は、マイクロソフトのツールなので、ActiveImage Deploy USB のサポート対象外である。しかし、ActiveImage Deploy USB の提供を開始して以来「マスターイメージをどのように作ればよいか」という問い合わせが非常に多く、マイクロソフトの Web サイトにもあまり情報がないという。そこでアクティファイでは、2018 年より ActiveImage Deploy USB を使ったキットニングの実習から自動応答ファイルを使用した Sysprep の実行のデモなど、手順を丁寧に説明するセミナーを開催している。

PC のキットニング作業を効率化し、エンジニアの負担を軽減させるためには、いかに適切なマスターイメージを作成するかが重要なポイントになる。働き方改革の推進もあり、限られた作業時間、限られた人数で、いかに効率よくキットニングを行うかという課題を抱えているエンジニアは、ぜひアクティファイのキットニングソリューション ActiveImage Deploy USB について問い合わせしてほしい。

なお、3 回まで利用できる ActiveImage Deploy USB の評価版を、アクティファイの Web サイトから申し込むこともできる。

ライセンスについて

ActiveImage Deploy USB PLUS (SIベンダー/キットニングセンター向けライセンス)



キットニング作業後にPC納品
リカバリー用USBメモリを添付

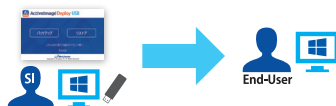
ライセンス内訳

例: 100ライセンス購入の場合

<SIベンダー側>

- ・マスターイメージ作成: 無制限
 - ・マスターイメージのデプロイ: 100回
 - ・デプロイUSBメモリの作成: 最大100本
 - ・リカバリー用USBメモリをPCに添付: 最大100本
- <エンドユーザー側>
- ・納品されたPC付属のリカバリー用USBメモリからのリカバリー: 無制限

ActiveImage Deploy USB (SIベンダー/エンドユーザー向けライセンス)



キットニング作業後にPC納品

ライセンス内訳

例: 100ライセンス購入の場合

<SIベンダー側あるいはエンドユーザー側>

- ・マスターイメージ作成: 無制限
- ・マスターイメージのデプロイ: 100回

株式会社 アクティファイ 〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町8番 NCO神田紺屋町
TEL: 03-5256-0877 FAX: 03-5256-0878 <https://www.actiphy.com> sales@actiphy.com